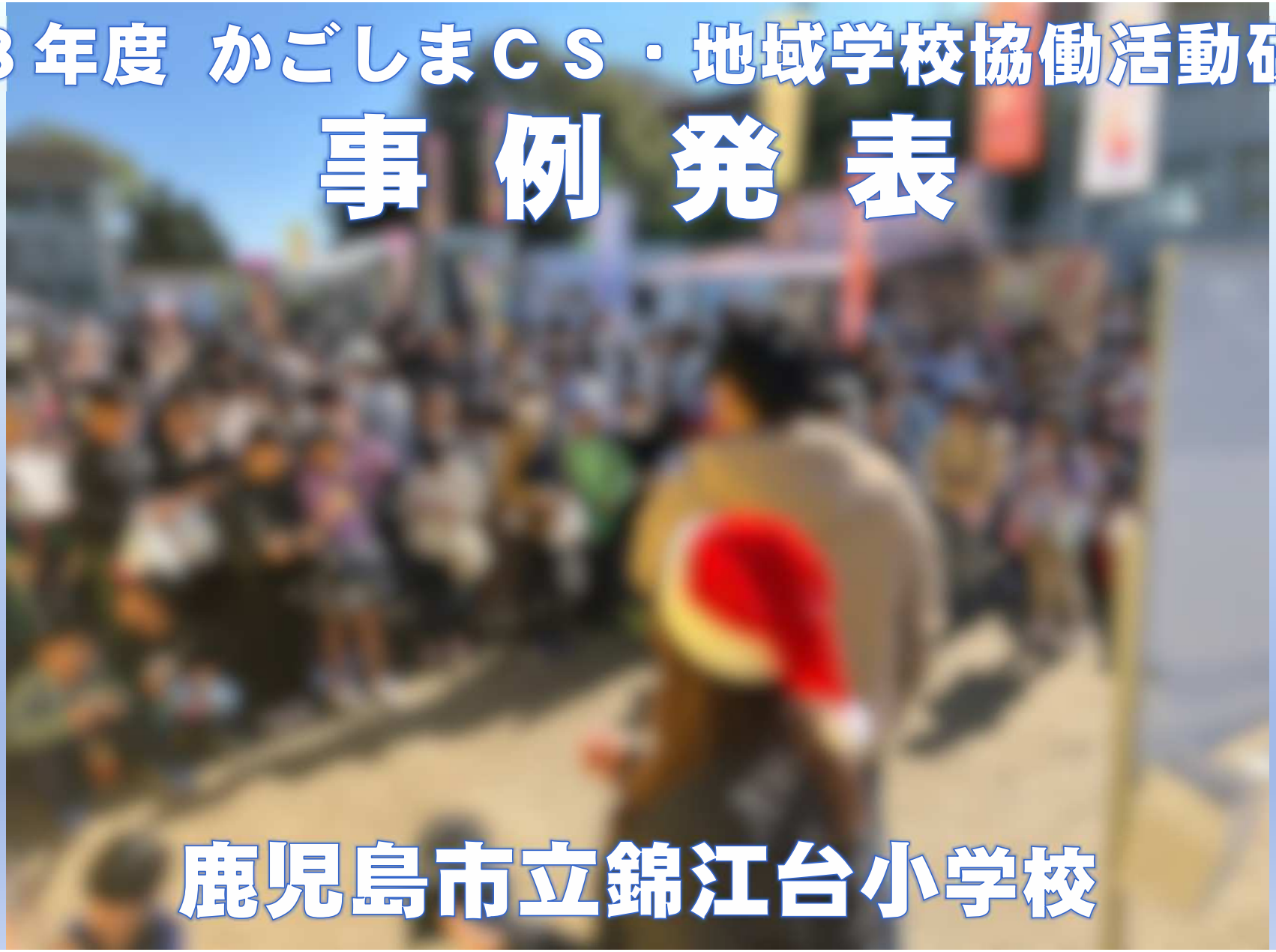
令和８年度 かごしまＣＳ・地域学校協働活動研修会

事 例 発 表

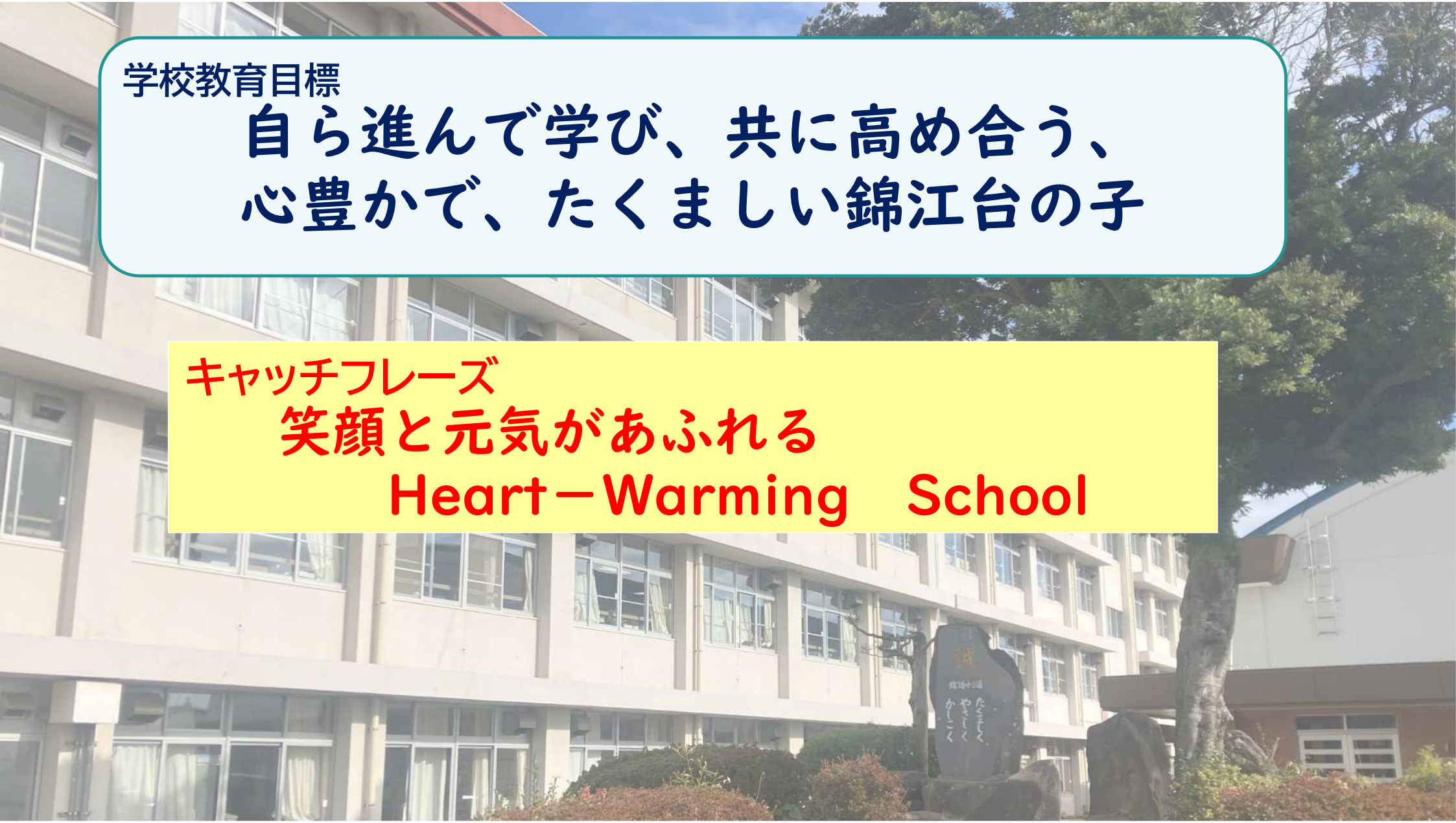


鹿児島市立錦江台小学校

錦江台小学校の紹介

- 鹿児島市南部　谷山地区に位置
- 創立４８年
- 児童数６２８人
- 学校から見える桜島・錦江湾の景色は壮大





学校教育目標

自ら進んで学び、共に高め合う、心豊かで、たくましい錦江台の子

キャッチフレーズ

笑顔と元気があふれる Heart－Warming　School

地域と学校の密な連携

地域行事への児童の積極的な参加



校区文化祭での金管バンドの発表



地域の夏祭りでの伝統芸能披露

地域と学校の密な連携

地域の協力による体験活動の充実



ミニ門松づくりに向けた竹の切り出し



校区歴史探訪まち歩きへの参加

地域と学校の密な連携

錦江台校区まちづくりプランへの
児童の意見反映

6年生が考案したスローガン
「みんながHAPPYになれるまち」

**錦江台の未来を担う子供たちを
地域で育てる体制**

地域リソースを
学校教育活動の充実に
つなげる仕掛け



学校・錦江台校区の課題

錦江台小学校
学校運営協議会での議論から

地　域

○ 高齢化等により、地域にできることが限られてきた。
○ 町内会・あいご会など、まちづくりを中心となって進める組織や人材の減少
○ 学校（教員）との関わりの減少
など

学　校

○ 児童一人一人に応じたきめ細かな指導・支援体制の構築
○ いじめ・不登校への対応
○ 社会に開かれた教育課程の推進
○ 業務改善の推進　　など

家　庭

○ 保護者同士の横のつながりの希薄化
○ 子育ての孤立化　など

課題が山積する中で、これからの学校教育を推進する上で、三者が連携しながら教育活動を進めていく重要性を共有

学校・錦江台校区の課題

錦江台小学校　学校運営協議会での「熟議」から

本校の強みは（地域リソース）何か

- 校区内に鹿児島国際大学がある。これは、大きな強みである。
- これまでも、連携を行ってきているが、この本校の強みをより効果的に生かしていくような取組にしていくことはできないか。

その後、　令和７年３月　鹿児島市教育委員会と鹿児島国際大学の連携協定締結

学校運営協議会として、本校の強みを共有し、そのことを生かして学校経営を行っていくことを確認

学校の強み（地域リソース）を生かした学校教育活動の推進
～鹿児島国際大学との小大連携を柱とした実践～

1　大学生の教育活動への関わり

2　大学教員による教育活動への関わり

3　校区全体での大学との関わり

4　「熟議」を柱にした、学校運営協議会の運営

小大連携の土台

令和８年度学校運営協議会委員

- ○　まちづくり協議会会長
- ○　ＰＴＡ会長
- ○　民生委員
- ○　児童委員
- ○　校区内幼稚園園長
- ○　鹿児島国際大学教員２人
- ○　鹿児島国際大学学生



大学関係者に委員を担ってもらい、円滑な連携に向けて尽力していただいている。

大学生の教育活動への関わり

学生の募集や取りまとめは、地域学校協働活動推進員が担当



授業での児童への
学習支援・声掛け



留学生と児童の異文化交流



陸上部による陸上教室

その他　運動会の運営補助・持久走大会での伴走・
教室に入ることができない児童への支援や関わり　など

大学生にとってもメリットとなるようなＷｉｎ－Ｗｉｎの取組（熟議による方向性）



日常的な授業参観の受入れ



学校経営についての校長講話

教員を目指している学生にとっては、実際の学校現場を日常的に体験できる場があることは、大きな経験や自信につながっている。

大学の教員による教育活動への関わり

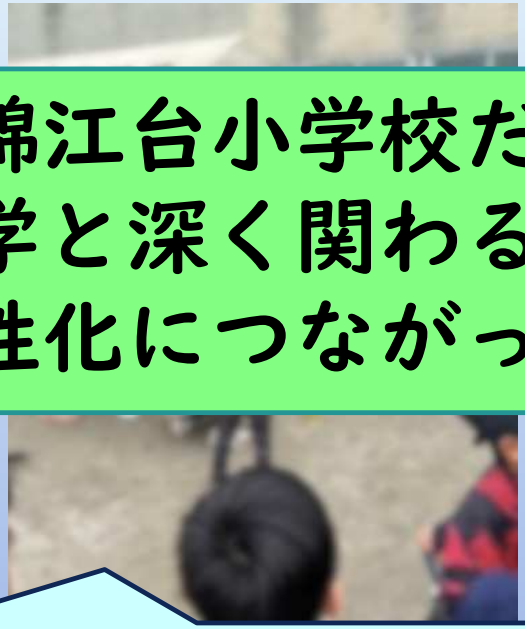
その他
- 児童を対象とした夏休みの理科実験教室
- 卒業式に向けた６年生への歌唱指導など

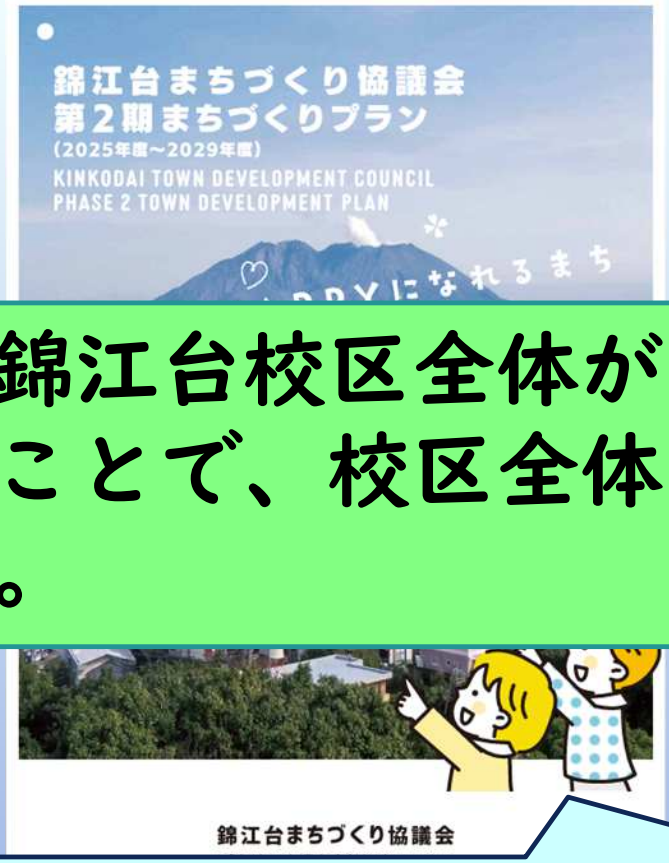


校内研修における指導講話

よりよい教育活動の推進に向けて、大学の教員の方々からは、いつもたくさんの示唆をいただいている。

校区全体での鹿児島国際大学との連携





錦江台小学校だけでなく、錦江台校区全体が大学と深く関わる取組が行うことで、校区全体の活性化につながってきている。

PTA主催のバザー「錦江台マルシェ」に**大学生ボランティア**が参加し、イベントを盛り上げた。

大学生や大学の教員が中心となって錦江台校区の活性化プランである「まちづくりプラン」の改訂を行った。

本校学校運営協議会における「熟議」の在り方

これまでの実践について（県教委ホームページに掲載）

1　熟議のテーマ

「校内で学級に入ることができない児童の居場所づくりを、どのように推進していけばよいか。」

2　熟議の流れ

⑴　いじめや不登校、登校後教室に入ることができない児童等に関する現状を学校が報告した。

⑵　教室に入ることができない原因を、多様な視点から議論した。

⑶　地域人材を活用して、教室に入ることができない児童の居場所づくりを推進することができないか、学校として検討していることを説明し、意見を求めた。

⑷　地域人材を活用するメリット・デメリットや、取組の具体化に向けて検討が必要な項目等について議論し、推進していく方向での結論でまとまった。

本校学校運営協議会における「熟議」の在り方



○　地域人材を活用した児童の居場所として「校内教育支援センター（こけけ）」を開始することができた。

○　その後の熟議で、大学生の活用等の改善策も出され、運用の改善を行うことができた。

本校学校運営協議会における「熟議」の在り方

令和8年度は、年間を通したテーマを設定
「学校と地域の効果的な連携に向けて」

1　第１回学校運営協議会
「地域リソースを生かした学校経営について」

2　第２回学校運営協議会
「子供が生き生きと活躍し、地域の一員としてふるさとを愛する心情を育むには」

本校学校運営協議会における「熟議」の在り方

熟議で出された意見等

- 学校と地域、まちづくり協議会の接点が少なくなってきている。教員の働き方改革のため、地域行事への参加など教員と地域の接点が少なくなってきた。
- 高齢化が進み、地域にできることが限られてきた。
- 地域行事に子供たちがもっと参加できるような取組はできないか。
- 連携の核となるキーパーソンの発掘が必要である。
- 子供が地域に学びに行く必然性がある教育課程にしていくとよい。
- 大人には気付かない子供ならではの視点で、地域の課題を発見し、そこから学びを深め、地域に貢献できるような活動ができるとよい。
  ※　大学生の委員からいただいた意見
- 学校でも、地域でも様々な行事や活動において、子供自身が企画・運営に参画できるようにしていくことが大切である。

本校学校運営協議会における「熟議」の在り方

熟議を受けての改善策・取組等



校区行事で「ボッチャ体験」
を新規で実施

○　令和１０年度の創立５０周年記念事業を、ふるさとを愛する心情を育むよい機会としたい。

○　そのためには、大人がお膳立てするものではなく、子供たちが主体的に計画・実施していくようにし、創立記念行事等を、有意義な学びの場とする。

子供主体の創立５０周年
記念事業推進の方向性

その他の取組　子供の声を学校運営協議会に

６年生が、学習内容の紹介を行い、学校運営協議会に協力を依頼するプレゼンを行った。



自ら計画を立てながら、主体的に、そして協働的に学んでいる子供の姿を見ていただくことで、学校経営についてより具体的に考えていただくことができる機会となっている。

委員は、協力できることを子供に伝えたり、子供の視点では気付かない様々な助言等を行ったりした。

成果と課題

１　成果

- 本校の強みを生かした学校経営を推進することができ、教育活動の充実につなげることができた。

- 熟議等を通して検討した内容を、学校経営に生かし、課題や改善点を次につなげるという、学校運営協議会におけるＰＤＣＡサイクルを構築することができた。

２　課題

- 学校運営協議会の取組や効果を、職員・家庭（児童）・地域に更に発信していく手立てを考えていく必要がある。